

大人も子どもも集まって成長  
できる居場所を創りたい――

湯日地区の初倉西部ふれあいセンターで、児童の居場所づくりに取り組んでいる「湯日の子どもたちを見守る会」。代表を務める富永さんは、仲間たちと子どもの成長を手助けするべく立ち上がりました。

【愛する地域を盛り上げたい】  
見守る会を立ち上げた当時、自治会長を務めていた富永さん。きっかけは、地域の要望からだったと語ります。

「湯日小のPTAから『学童保育所の地域版』を作ってほしいと依頼があったね。湯日の子どもたちは、家同士が離れていて、一緒に遊ぶ場所が無かったんですよ。ちょうど県外から湯日にUターンしてきた同級生が最初に賛同してく



くれたこともあって、そこから周りに支援員としての協力を呼びかけました。生まれ育った愛着ある地域で、自分たちの手で

子育て世代を応援したい。そして、多くの家族にとって暮らしやすい地域にしたいと思っただけです」

【やりがいは子どもの成長】  
今では、小学生だけでなく



湯日の子どもたちを見守る会 代表  
とみながふみお  
富永文夫さん(湯日)

中学生も参加し、広い年代での交流が生まれていると、富永さんは目を細めます。

「上級生は下級生の面倒を見るようになり、下級生は上級生を頼るようになりまし

たためのリソースづくりなど、自分たちで協力して進めてくれています。また言葉遣いも、上級生を見習って下級生も変わってきました。子どもたちの中に、年下の子を思いやる気持ちが生まれたただけでな

接することで、支援員の側にも変化があったといえます。「仕事や趣味で培った知識や技術を生かして、鳥の巣箱など、ものづくりを教えてください。もちろんそれは子どもたちのためになっっているんですが、それと同時に、大人たちもやりがいを感じて生き生きとしているように感じます。子どもたちと接するだけでも元気をもらえて、自分たちも気持ち若返るんですよ」

「地域ぐるみで子どもを育てる『ゆったりとした教育』を、これからも継続できればと思っと思っています。次の世代の支援員を確保することなど課題はありますが、活動を続けていられるからこそ、子どもたちや地域の人たちが集まってくれる。これからも、人が交流し成長できる場を創っていききたいです」

く、大人との接し方なども学んでくれている。どんどん成長しているんだと感じると、うれしくなりますね」

【みんなが輝ける場を】  
富永さんは、子どもたちと

愛する郷土を守り発展させるため、富永さんは、これから湯日に集う人たちが輝ける居場所を創り続けていきます。



子どもたちは、違う学年の子と一緒に、クリスマス会などのイベントの準備にも取り組んでいます。

Shimadajin File #87

Story 島田人